

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

事業所名 グループホーム パラディーソ神宮寺

日付 平成19年3月31日
特定非営利活動法人
評価機関名 ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験9年
評価調査員 老人保健施設介護実務経験6年、居宅
介護支援事業所介護支援専門員経験6年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

外部評価の結果

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

自分の個人的な強い思いが高まって宅老所を立ち上げるといった自主事業は別として、介護保険制度の枠の中で、職員の自主性や強い信念が貫かれ堂々と継続されているグループホームはなかなか無い。法的規制や諸事情が絡んで、涙を吞んでいる管理者も居る。もちろん、定められたルートを歩めば、と言う所もある。こういった状況の中で、このホームでは、自分達が目標とする「より良いケア」を頭に描いて、一つ一つ検証し、自主的に定めたやり方を踏襲している。所々に、凛とした輝きを見せられる数少ないグループホームの一つである。この姿勢を大きくバックアップしているのが「経営より、地元の人々に貢献したい」と願う代表者の心の大きさだろう。職員はこの太い大黒柱に支えられて夢を実現している。

このホームのキーワードは「変わらない」という言葉ではないだろうか。職員数が少なく、一見仕事が大変なのでは？と思えるが、職員採用時に選りすぐり、じっくりと研修を積み、ここでのケアを体得した職員は辞めない、少数精鋭主義の利点がいっぱい見られる。

「変わらない」の2つ目は「利用者が変わらない」だ。入れ代わりも少なく、その人の状態の変化も少ない。一昨年の外部評価の時と殆んど同じ状態で、殆んど同じ会話を交わす事が出来る人が居るのには驚いた。相当高齢であるにも関わらず、2年間レベルを殆んど落としていない事は、何よりの職員への勲章になるだろう。

この二つの「変わらない」事実は福音を山程もたらしてくれる。一番は、お互い馴染みの関係がしっかりと築かれる事と思う。職員間の情報も共有し易いし、理解し合え、心が通じる。無駄を削ぎ落として、寄り添いの時間をたっぷりとする。私自身の生活圏内にこのようなホームがある事を誇りに思う。

特に改善の余地があると思われる点 次のような提案をした

職員の自主性が活かされたホームでは、必ずと言っても良い位、何か光るものを感じます。このホームに、もし、今以上の何か付加を問われるなら、それは、「職員一人ひとりの個性がもう少し表に出て良いのではないか」という事です。解決策の一つとしてホーム長が提案している「職員を一旦他所へ」の試みに賛成です。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
	認知症のケアを仕事としている人々の中でも、「認知症という病気や症状」を先に見てしまっているのではないかと疑問に思う事がよくある。しかし、このホームの職員は、さんを先ず、「さん」で見て、「高齢者である事」や「認知症の人」というメガネをかけていない。この「メガネをかけない事」は簡単そうで、実は大変に難しい事と、多くのグループホームを訪問して実感している。ある面で共通した人生観を持つ人の集まりでないと、このホームのようなケアの有り方は難しいかも知れないとすら思える。 また、「自立を支援する」と言う事も、利用者・職員相互に、相当に厳しい事だろう。車椅子は使わない。相当に厳しい状況になっても、職員の手引き歩行で自分の足を動かしてもらっている。「家では何も出来なかった。此处では話しは出来るし、手伝いも出来る。」と喜ぶ利用者もいる。2年前の外部評価訪問の時に非常に混乱があった人が、今は穏やかに落ち着いて、その人らしい表現をしている。こんな状況を夢見て、そして確実に実現している。		

生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
	敷地が狭く、お隣さんの気配や植木の手入れも見られ、「施設」でなく「我が家」といった感じがする。居室やリビングルームも飾り等は最小限でシンプルな装いに拘りを感じる。柱や、それぞれ趣向を凝らした木戸の色合いも、年月を経て美しさに深みを増している。不必要だから表示も名札も付けていない。この潔さも、このホームならではの。利用者からも職員からも「住み慣れた我が家」を感じる。		

ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人で行えることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
	ケアプランの記録の中のモニタリングの部分で、「本人・家族のコメント」がとても良く共感がある。職員がどの位懸命に、利用者の経験や今の思いを引き出し、大切にしようとしているか、しっかり伝わってくる。「自分のしたいようにさせてもらって、何も言う事はありませぬ」とコメントしているさんと私は長話をした。長い人生の中のある部分を淡々と話してくれたが、この人の心の内側までこのホームはがっちり受け止めていると感じた。 目を開ける事も少なく、体位保持も出来ず、他にも問題を抱えているさんの、2年前より穏やかな表情と表現が見られて、堂々と続いている努力の足跡を偲ぶと同時に、家族のたちばとして嬉しさを感じた。モニタリングの家族のコメントに、「外出にも、皆さんと一緒に参加させてもらえ、嬉しい」があるのを見つけ、私の喜びが倍増した。		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。		
	より良いケアの為に何に重点を置き、何をそぎ落としていくか、思い切りの良い決断をして、自ら信じる道を邁進しているホームである。家族との関係性についても「ホームのパートナー」と捉え、入居時はもちろん、その後も継続してその姿勢を示し続けている。「家族から全面的に信頼されている」と話す総務部長の言葉。そして、「この地域の要望もあって、小規模多機能施設も考えている」という代表者の地域貢献への熱い思いは、このグループホームを足掛かりに、今後大きく飛躍するだろう将来を予測できる。今のままでは実にもったいない。地域住民の一人である私も、この資産を幅広く活用していただきたいと願うばかりだ。		